

1 与謝野町地域公共交通計画策定の背景と趣旨

1-1 計画策定の背景と趣旨

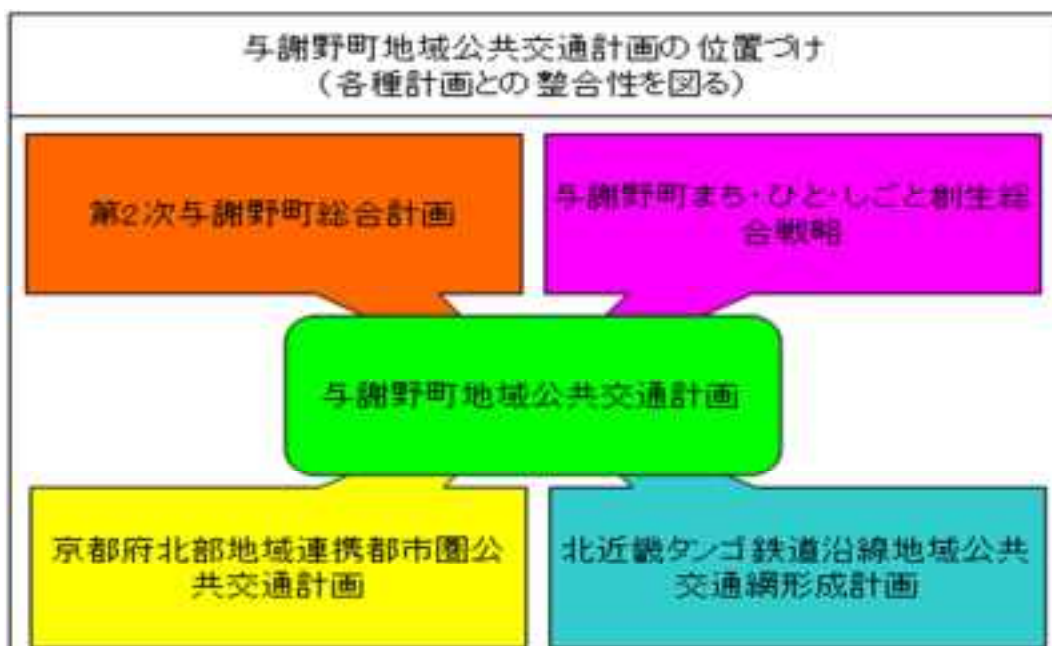
本町は少子化や人口移動による人口減少が続いていることに加え、高齢化が急速な勢いで進んでいます。交通の面では、多くの世帯で自家用車の普及が進み、高齢化により自動車の運転免許証の自主的な返納が増加しているものの、依然として自家用車による移動が中心の社会となっています。

こうした中、運転免許証を保有していない高齢者や障害者、一人では移動が困難で支援を必要とされる方等を中心に民間事業者が運行する路線バスや町営バス、福祉有償運送等が利用されているところですが、これら移動手段のそれぞれの運行事業者によってサービス提供のための努力がなされているものの、行政による支援なくしては維持確保ができない状況が長年続いていること、行政の厳しい財政状況、人口減少による需要の減少、サービスを提供する担い手の減少、地域住民以外の観光客等にも便利な移動サービスの提供が求められるなど、様々な課題に直面しています。今後の地域の移動手段を持続可能なものとする上でも、こうした課題の解決を図るため、中期的なビジョンを持って施策展開を行う、「与謝野町地域公共交通計画」を策定します。

1-2 計画の位置づけ

本計画は「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会で策定した、「第2期京都府北部地域連携都市圏ビジョン」に掲げる観光・交通部会が目指すべき交通分野の将来像である、「多様な移動ニーズに対応する時速可能で便利や交通圏域」の実現を目指すものです。

また、「第2期京都府北部地域連携都市圏公共交通計画」のほか、「第2次与謝野町総合計画」や「第2期与謝野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画」との整合を図るものとします。



○関連する計画の記載

第2次与謝野町総合計画（計画期間：平成30年度～令和8年度）

●分野2 地元を誇りに思い、人の流れを生むまち

施策2 魅力を体験・体感できるコンテンツの開発

- ・計画資源を住民自身が磨き上げ、来訪者が魅力を体験・体感できるコンテンツ開発及び滞在拠点整備を進める。（公共交通の活用及びスローモビリティなどによる町内周遊モデルの確立）

●分野6 美しくて住みやすい安心安全なまち

施策4 誰もが住みやすいと感じられる生活環境の構築

- ・このまちに暮らす誰もがまちへの愛着をもち、将来に渡って住み続けたいと思える生活環境を構築する。（利用しやすい公共交通の確保）

第2期与謝野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：令和2年度～令和6年度）

●基本目標5 地域と地域が連携し、持続可能なまちをつくる

（イ）誰もが暮らしやすい生活環境の整備

- ・地域や住民のニーズに柔軟に対応できる生活交通の維持・確保を図るとともに、町内に点在するさまざまな拠点へのアクセス確保、利便性・回遊性の向上を図り、誰にも便利な交通ネットワークの充実を図る。

北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画（計画期間：平成27年度～令和6年度）

●目指すべき「沿線地域の姿」

- ・自分たちのまちとして誇りが持て、住み続けたいと思う地域
- ・自動車が利用できなくても、公共交通だけで暮らしていける地域
- ・魅力的な観光圏として、国内外から多くの人が集まる地域
- ・元気な産業・新たな雇用が生まれ、域外の人に移り住みたいと思う地域

●目指すべき公共交通の姿

- ・地域の人々や企業から信頼される、安心・安全な公共交通
- ・便利で魅力的で、乗りたくなる、みんなに愛される公共交通
- ・まちづくりの中核を担い、地域が支える公共交通
- ・国内外からの来訪者に対応できる、世界に通用する水準の公共交通
- ・交通モード相互の連携が図られ、だれもが使いやすい公共交通

1-3 計画策定の条件

○計画期間

本計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。なお、本計画の策定後、社会情勢や交通を取り巻く環境に著しい変動等が生じた場合は、必要に応じ計画の見直しを行います。

○計画の区域

本計画の対象区域は、本町全域とします。

2. 与謝野町の概況

2-1 人口

2-1-1 人口構成の推移と将来推計

本町の人口は減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2045年に12,219人まで減少すると推計されています。

年代構成は、年少人口（0～14歳）割合、生産年齢人口（15～64歳）割合が減少する一方で、老年人口（65歳以上）は増加し2045年には49.7%と人口構造が急速に変化し、0.85人で1人の高齢者を支える超高齢化社会になると推計されています。

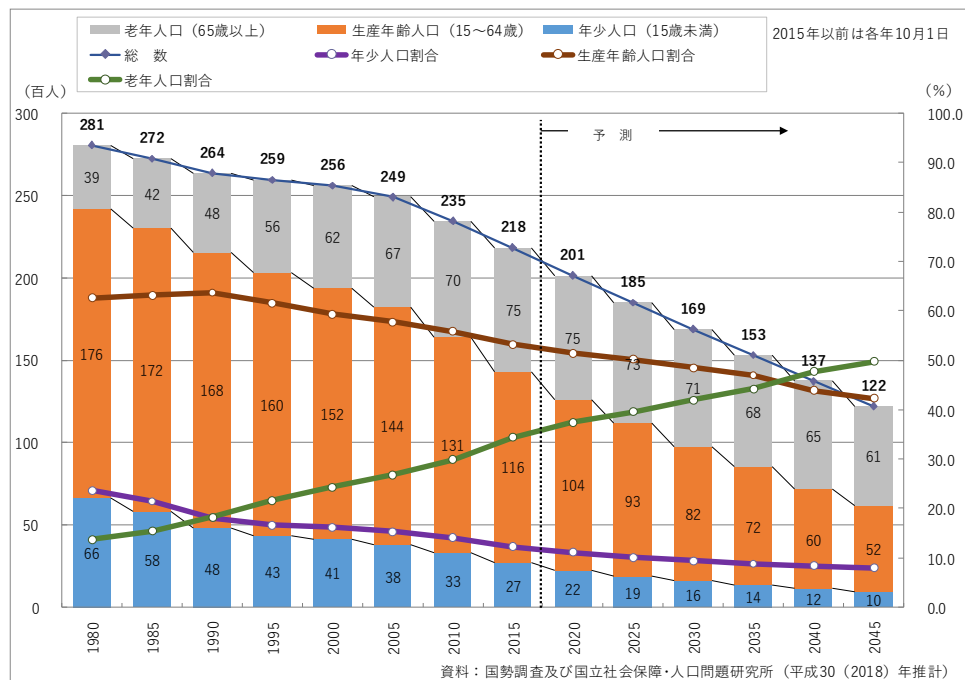


図 2-1 人口

2-1-2 高齢化

65歳以上人口は減少段階に入っていますが、75歳以上人口は2025年にピークの4,480人となり、また85歳以上人口は2035年にピークの1,930人となり、その後は減少に転じますが、人口に占める割合はいずれも増加すると推計されています。

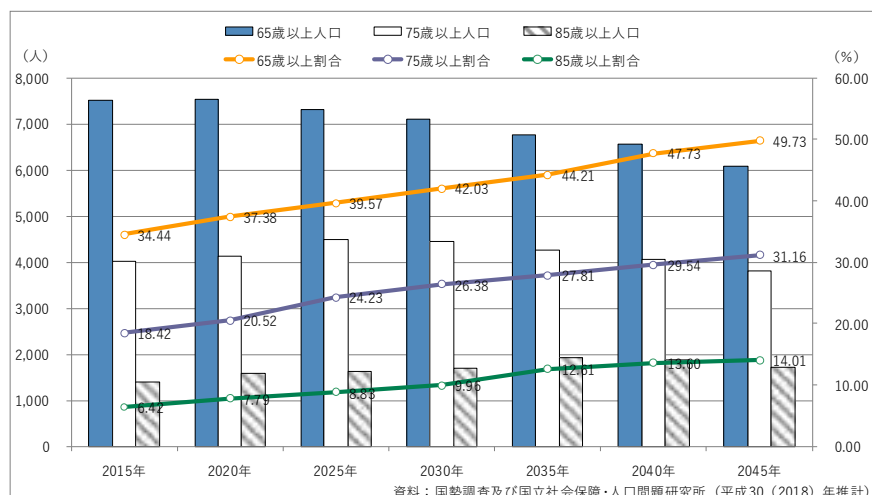


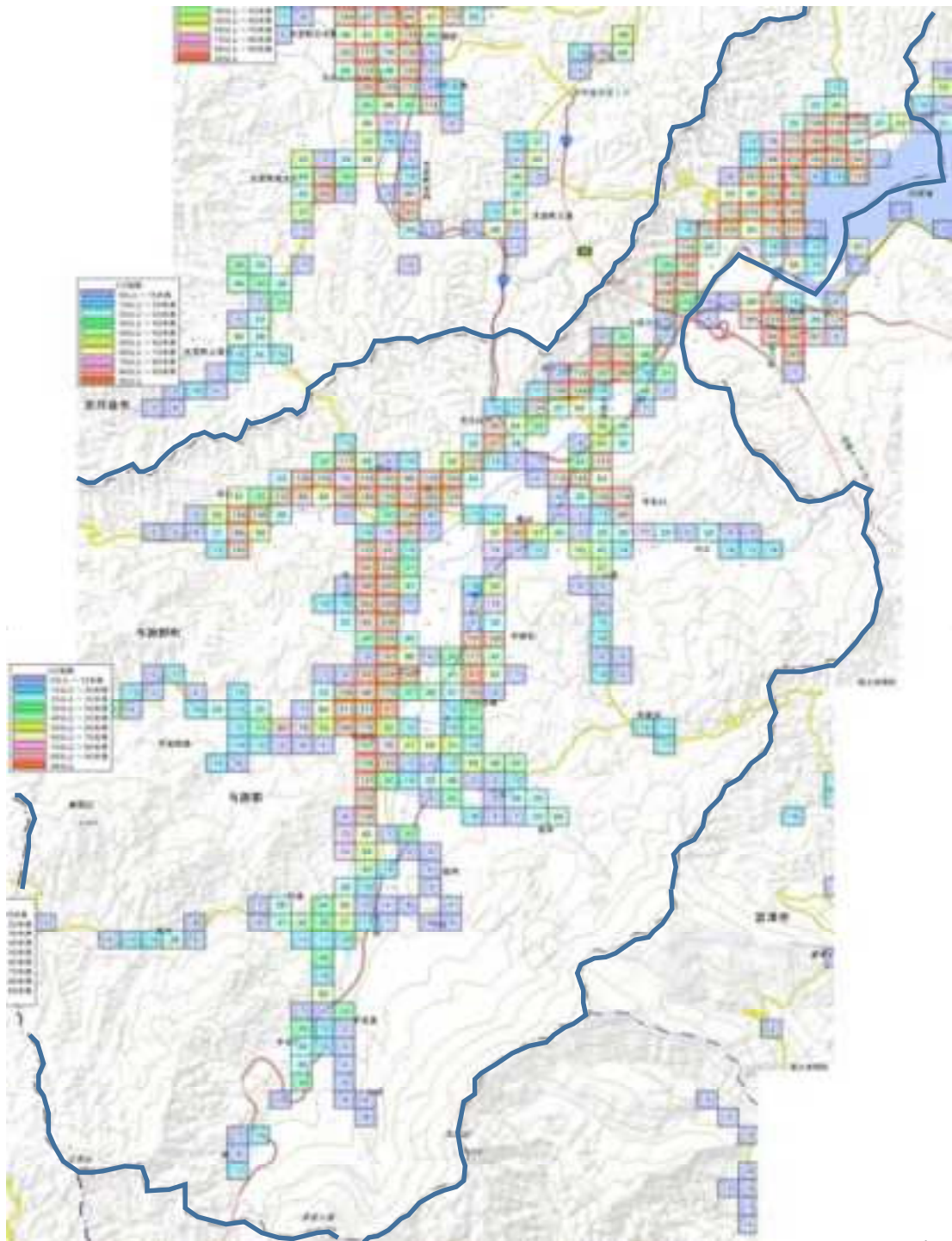
図 2-2 高齢化

2-1-3 人口の分布

本町の人口分布は、合併前の旧3町それぞれの中心地域に一定の集積があるほか、西側の南北に細く長く連なる町並み・集落に沿って集積しています。

また、町域の東・南・西側それぞれの中山間地は主要道路に沿って、居住地が集積あるいは点在しています。

なお、国道176号石川バイパス沿線に商業施設が集積しています。



【出典】平成27年度国勢調査

図2-3 人口分布

2-1-4 地区の人口・高齢化率

地区の人口及び高齢化の状況は、香河、奥滝、温江が比較的人口が少なく、高齢化が高い地区となっています。一方で三河内、石川、幾地が比較的人口が多く、高齢化率が低い地区となっています。

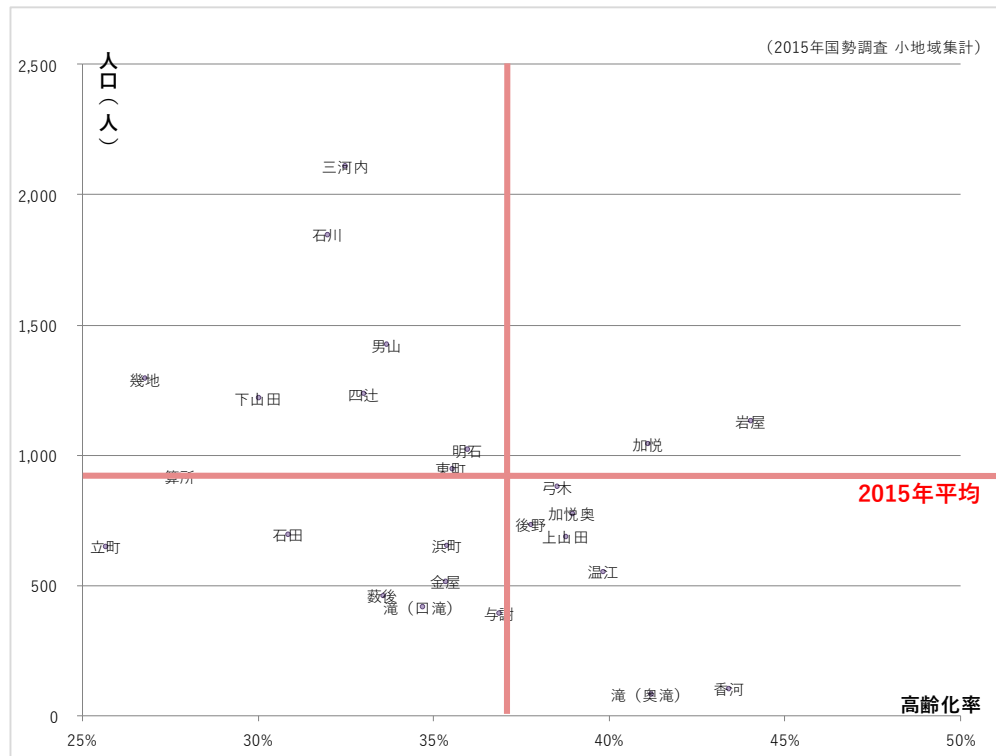


図 2-4 地区人口及び高齢化 【出典】平成 27 年度国勢調査

2-2-1 与謝野町における人の動きの特性

【出典】平成27年度国勢調査

Figure 1 is a bar chart showing the number of people entering and leaving the city, and the difference between the two, for various districts in Beijing. The Y-axis represents the number of people in thousands (万人). The X-axis lists districts: 东城区, 西城区, 朝阳区, 海淀区, 丰台区, 石景山区, 门头沟区, 房山区, 通州区, 顺义区, 昌平区, 大兴区, 怀柔区, 密云区, 延庆区. The legend indicates: 流入人数 (Inflow), 流出人数 (Outflow), and 流入人数 - 流出人数 (Inflow - Outflow).

District	Inflow (万人)	Outflow (万人)	Inflow - Outflow (万人)
东城区	1.5	0.5	1.0
西城区	1.5	1.5	0.0
朝阳区	0.5	1.0	-0.5
海淀区	0.5	0.5	0.0
丰台区	0.5	0.5	0.0
石景山区	0.5	0.5	0.0
门头沟区	0.5	0.5	0.0
房山区	0.5	0.5	0.0
通州区	0.5	0.5	0.0
顺义区	0.5	0.5	0.0
昌平区	0.5	0.5	0.0
大兴区	0.5	0.5	0.0
怀柔区	0.5	0.5	0.0
密云区	0.5	0.5	0.0
延庆区	0.5	0.5	0.0

【出典】平成27年度国勢調査

2-3 公共交通機関の状況

2-3-1 町内の公共交通ネットワークの状況

(1) 鉄道の状況

1) 鉄道駅の位置等

京都丹後鉄道宮豊線の与謝野駅があり、高校生の利用が多く、鉄道による他市町への移動、他市町から加悦谷方面への移動の結節地点となっています。路線バス、タクシーとの乗り換えのほか、駅東側のサイクリングロードを利用した自転車（レンタサイクル有り）による移動が見られます。

また、岩滝地域から最も近い駅として岩滝口駅（宮津市）があり、路線バスとの乗り換えによる移動が見られます。

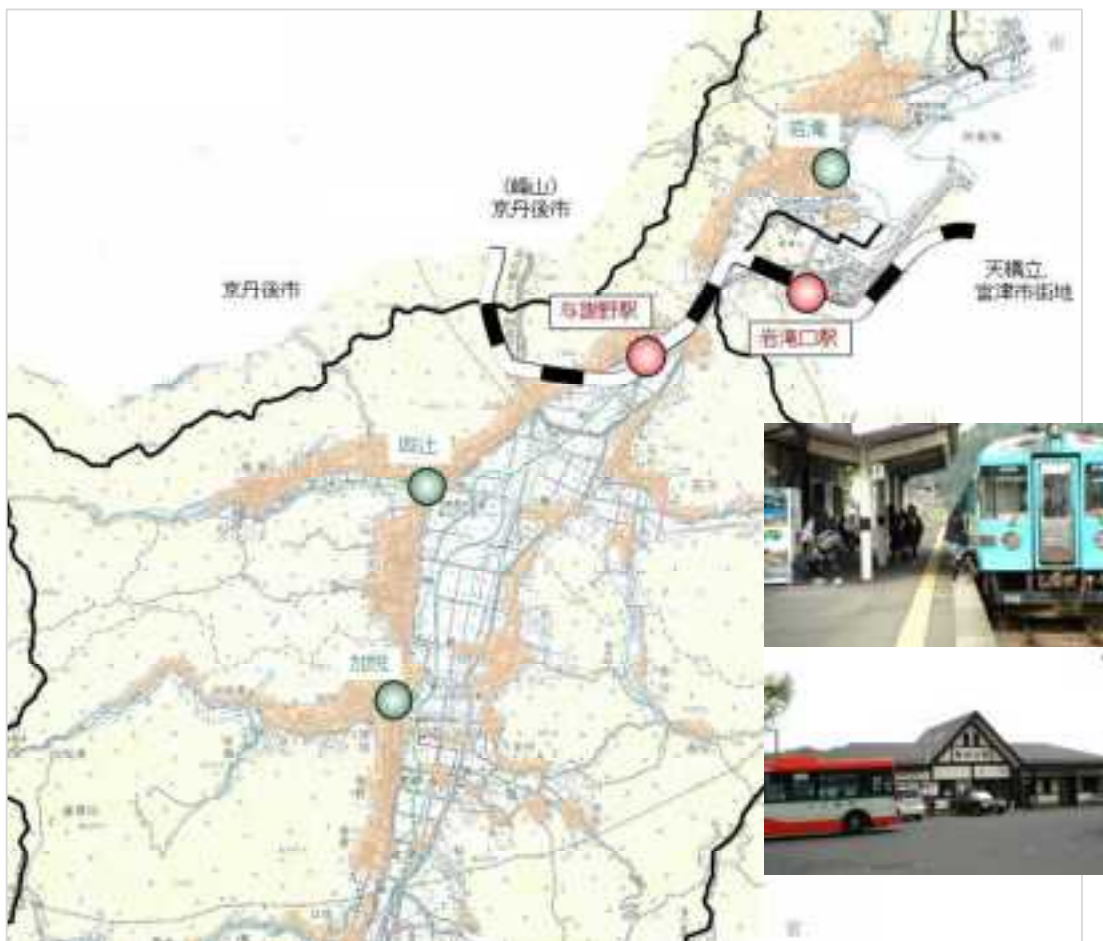


図 2-7 鉄道

2) 与謝野駅の利用状況

利用者数は減少傾向となっています。

令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んでいます。

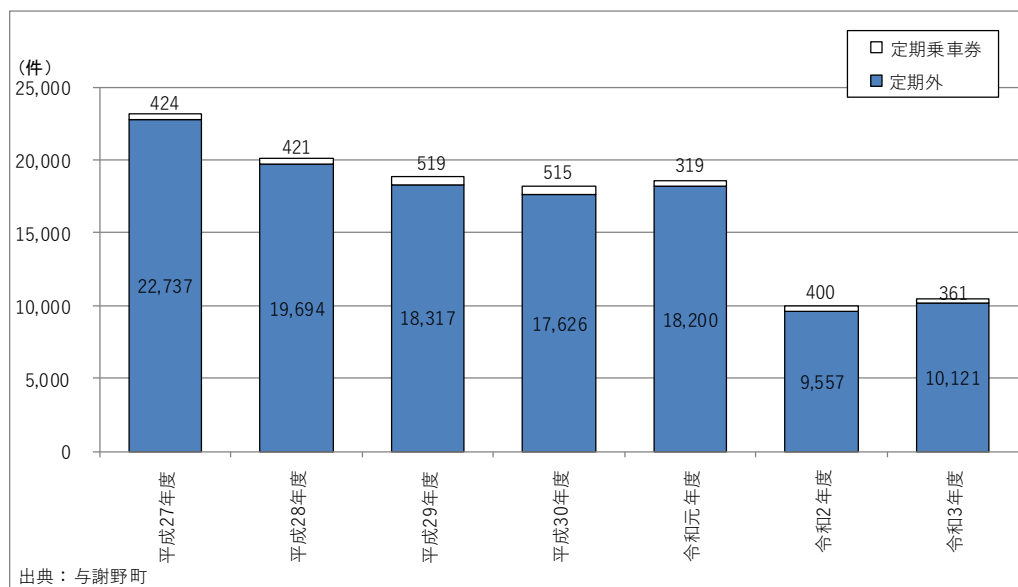


図 2-8 与謝野駅

(2) 路線バスの運行状況

1) 町内バスネットワークの状況

町内を運行する路線は 10 路線あり、丹後海陸交通株式会社が運行する幹線系統のバスと、幹線系統バスが運行されていない地区住民の日常生活に必要な移動手段として町営バス（コミュニティバスひまわり）があります。

表 2-1 丹後海陸交通バス

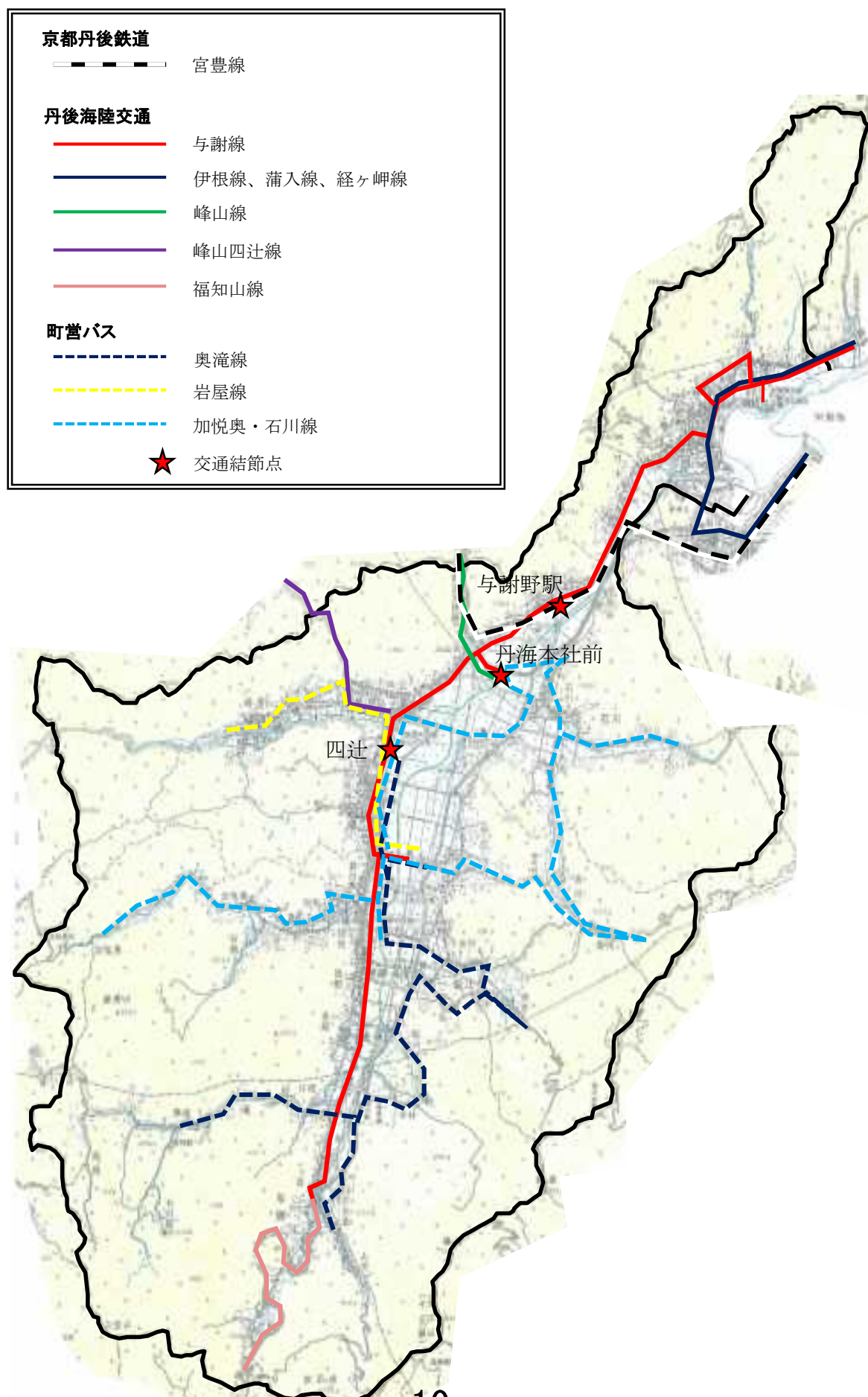
No.	路線名	路線 延長 (km)	運行便数	備考
1	伊根線	37.2	平日 14 便、土日祝 8 便	国庫補助路線（地域公共交通確保維持改善事業費補助金（幹線系統））
2	蒲入線	48.4	平日 9 便、土日祝 9 便	
3	経ヶ岬線	55.4	平日 8 便、土日祝 8 便	
4	与謝線	22.5	平日 15 便、土日祝 12 便	
5	峰山線	16.5	平日 13 便、土日祝 12 便	
6	峰山四辻線	20.0	平日 10 便、土日祝 10 便	国庫補助路線（地域公共交通確保維持改善事業費補助金（フィーダー系統））
7	福知山線	28.6	平日 6 便	町補助路線

表 2-2 町営バス

No.	路線名	路線 延長 (km)	運行便数	備考
1	奥滝線	23.1	月・水・金曜日 4 便	国庫補助路線（地域公共交通確保維持改善事業費補助金（フィーダー系統））
2	岩屋線	5.5	月・水・金曜日 4 便	
3	加悦奥・石川線	31.1	火・木・土曜日 4 便	



与謝野町の主な交通体系



(3) 町内のタクシー運行状況

町内を営業区域に含めるタクシーは、下表の1社があります。

表 2-3 タクシー

事業者	営業所所在地	営業区域	事業用 自動車台数
日本交通株式会社	宮津市今福 955-1	丹後交通圏	

(4) 福祉有償運送の運行状況

町内に活動拠点を置く福祉有償運送団体は、下表のとおり1団体があります。

表 2-4 福祉有償運送

団体	登録台数
社会福祉法人 与謝野町社会福祉協議会	8 台

(5) 高速バスの運行状況

高速バスについては、下表のとおり1社があります。

表 2-5 高速バス

事業者名	路線名
丹後海陸交通株式会社	京都線
	大阪線

(6) 医療機関が運行する総送迎バス

医療機関による送迎バスについては、下表のとおり2団体があります。

表 2-6 医療機関送迎バス

団体	運行日	運行日
公益財団法人 丹後中央病院	加悦～野田川方面	月曜日・金曜日
	岩滝方面	火曜日
	宮津市・岩滝方面	木曜日
	宮津市・岩滝方面	第2・第4土曜日
医療法人福富士会 京都ルネス病院	与謝野町・雲原方面	月～土曜日

2-3-2 町内各路線バスの利用状況、財政負担状況

(1) 乗車人員

1) 丹後海陸交通バス

丹後海陸交通株式会社が運行する幹線系統の路線バスの年度別乗車人員は、天橋立～伊根間の外国人観光客の利用により増加傾向にありましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少となりました。

なお、令和元年10月に与謝線、福知山線を再編し、与謝線への統合と福知山線の減便により両路線の役割分担を図りました。

また、令和2年10月には峰山四辻線を再編し、与謝野町内の運行経路を大幅に短縮し京丹後市への移動手段の確保を行いました。

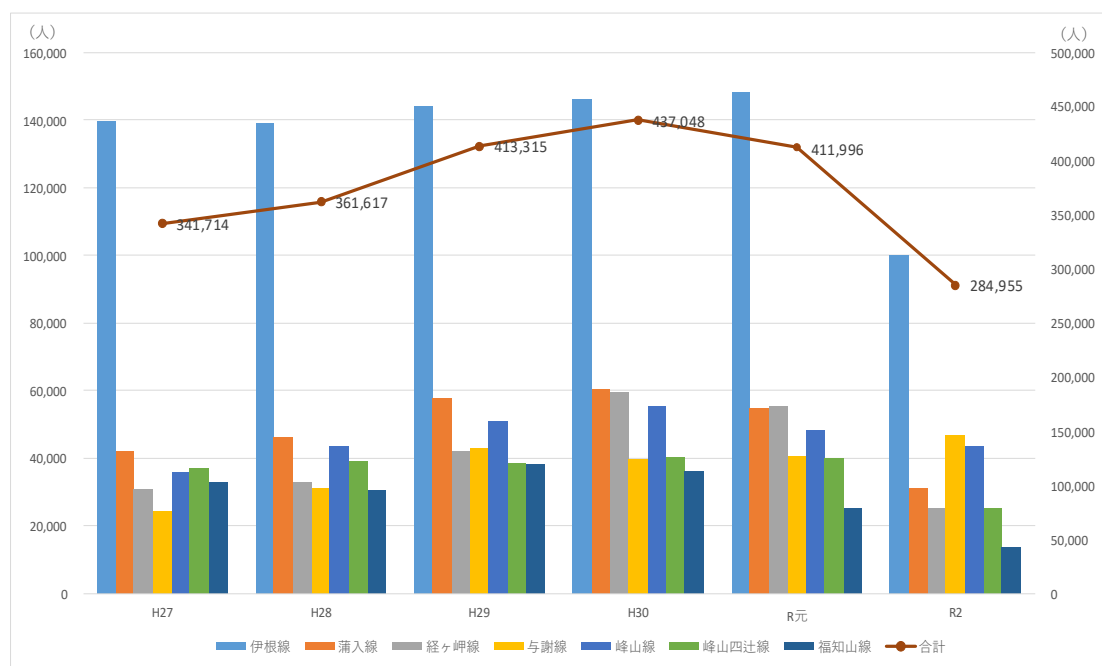


図 2-9 路線バス乗車人員



2)町営バス（コミュニティバスひまわり）

幹線系統バスが運行されていない地区住民の日常生活に必要な移動手段として町営により運行するコミュニティバスひまわりの年度別乗車人員は、沿線人口の減少を背景に乗車人数も減少傾向となっています。

※岩屋線は令和2年10月から運行

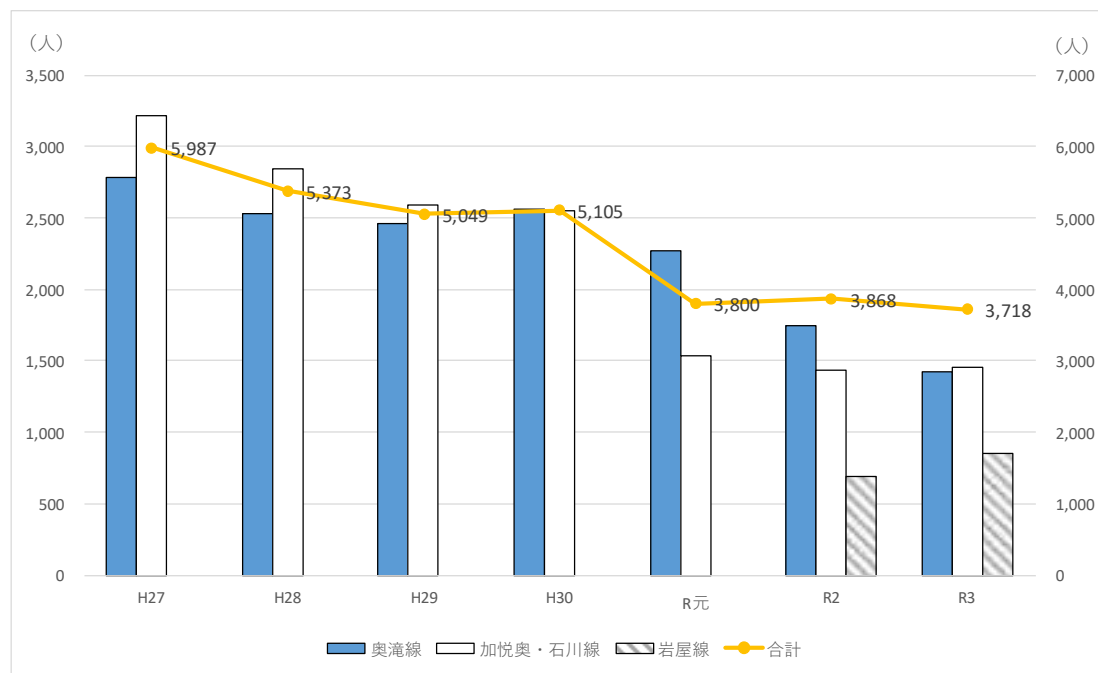


図 2-10 町営バス乗車人員

(2) 与謝野町の財政負担

1) 丹後海陸交通バス

丹後海陸交通バスの運行に係る補助金は、キロ当たり経常費用の増加に伴い補助金も増加傾向となっています。

なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、一時的に国・京都府支援があったこと、また令和2年10月の峰山四辻線の再編によって補助金は減少しました。

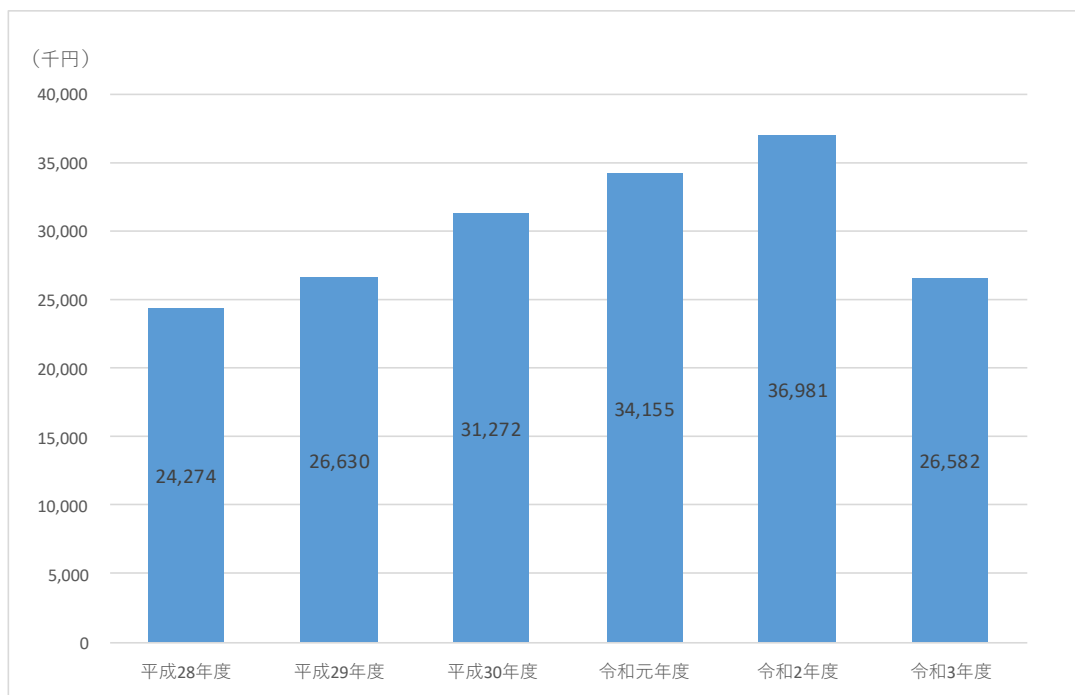


図 2-11 路線バスに係る財政負担

2) 町営バス（コミュニティバスひまわり）

運行委託料から運賃収入と国補助金を差し引いた実質町負担額は、平成30年度まで横ばい傾向でしたが、直近3ヶ年は運行日数の縮小、拡大による負担の増減や、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、一時的に国・京都府支援があったことによる町負担が減少する等、年度ごとに増減していますが、令和3年度の特殊要因を除くとキロ当たり経常費用の増加と運賃収入の減少により町負担及び乗車人員一人当たりの町負担は増加傾向と言えます。

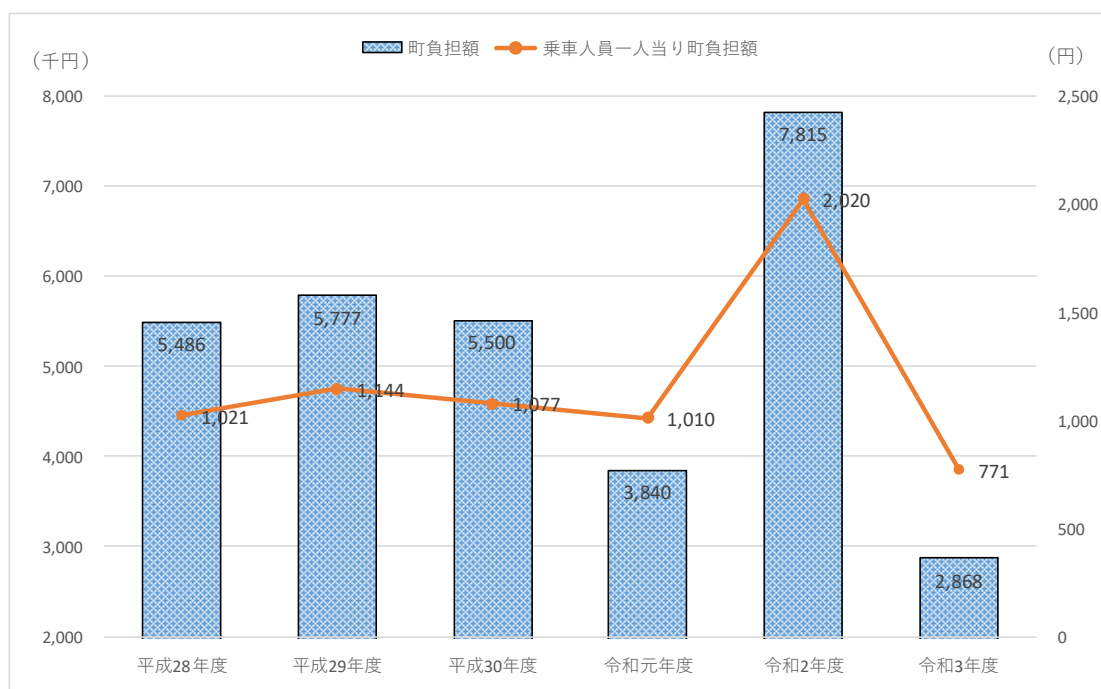


図 2-12 町営バスに係る財政負担

2-4 移動環境

2-4-1 自動車保有台数及び運転免許保有者数

自動車保有台数及び運転免許保有者数ともに減少傾向となっています。世帯当たり普及台数はやや減少傾向となっています。

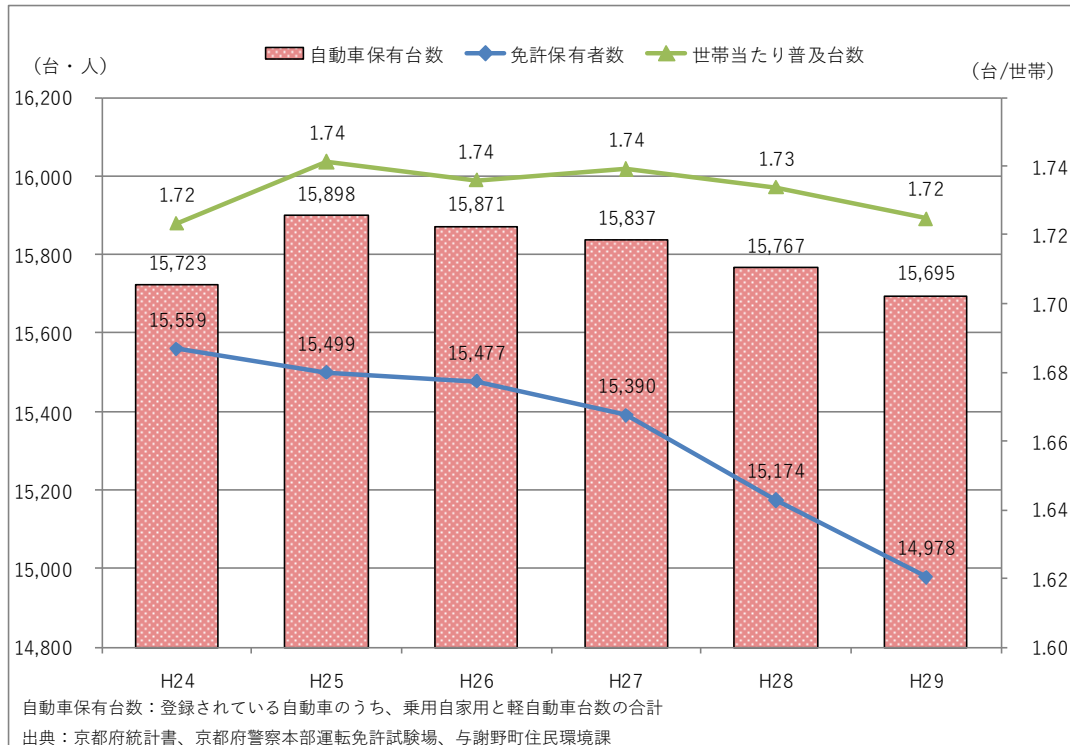


図 2-13 自動車保有台数及び運転免許保有者数

2-4-2 高齢者運転免許保有率、運転免許返納者数

高齢者の運転免許保有率は高く 70～74 歳で 73.84% となっていますが、75 歳以上になると急激に減少しています。また、高齢者免許返納者は増加傾向にあります。

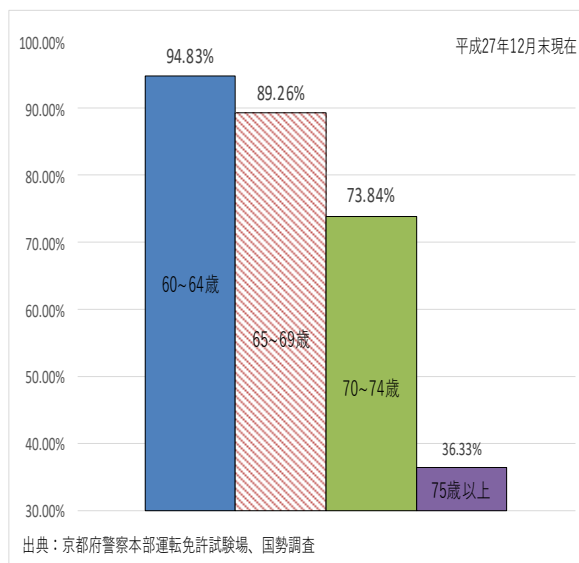


図 2-14 高齢者運転免許保有率

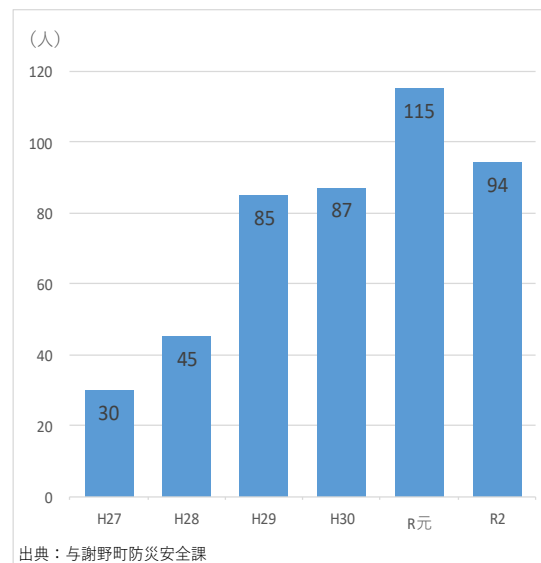


図 2-15 高齢者免許返納者数

2-5 観光入込客

2-5-1 観光入込客

観光入込客数は年々減少傾向にあり、和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込みました。京都府北部地域の市町の中でも少ない状況となっています。

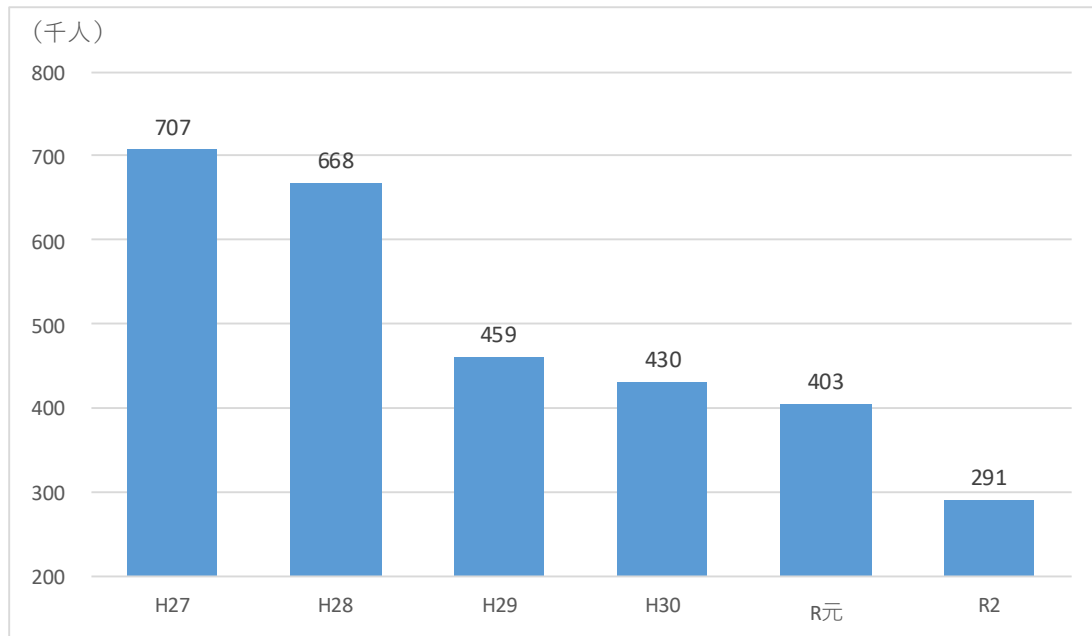


図 2-16 観光入込客

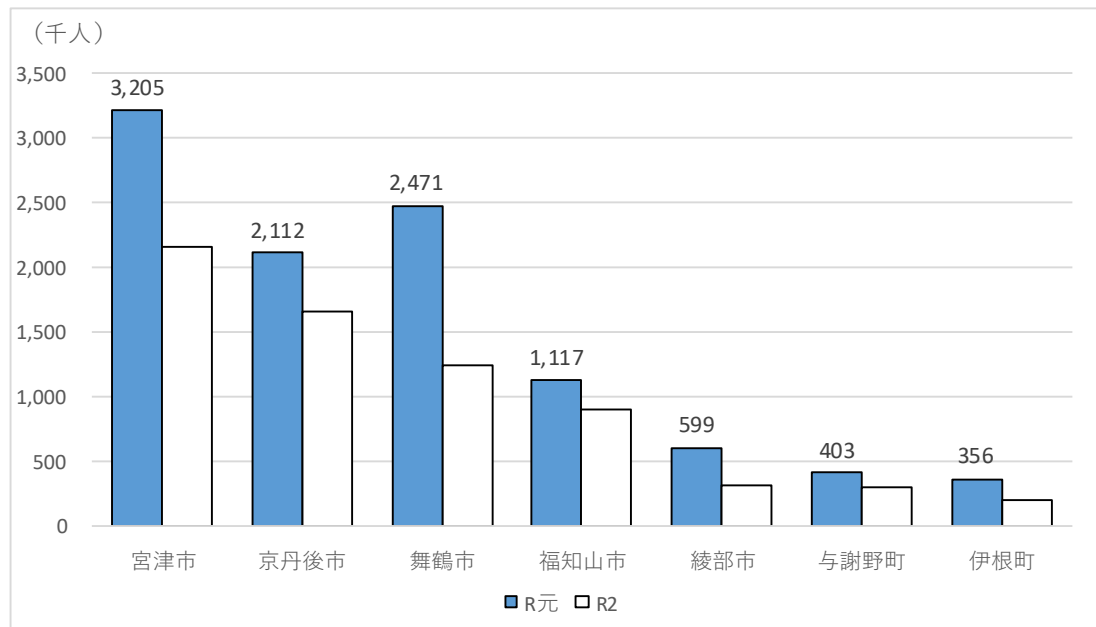


図 2-17 京都府北部地域観光入込客（令和2年度）

2-6 与謝野町の公共交通に関するアンケート調査

計画を策定するにあたり、①高校生以上の町民を対象とした無作為抽出によるアンケート調査、②本町内に所在する高校の生徒を対象としたアンケート調査、③公共交通の利用者へのアンケート調査をそれぞれ実施しました。

アンケート調査の結果、本町民の移動実態や、公共交通の利便性の低さを感じられていることを裏付けるものとなりました。（アンケート詳細は、資料編に記載）

※本アンケートは、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会の構成市町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）と共同で実施しております。

2-6-1 高校生以上の町民を対象とした無作為抽出によるアンケート調査

(1) 調査対象数と回収率

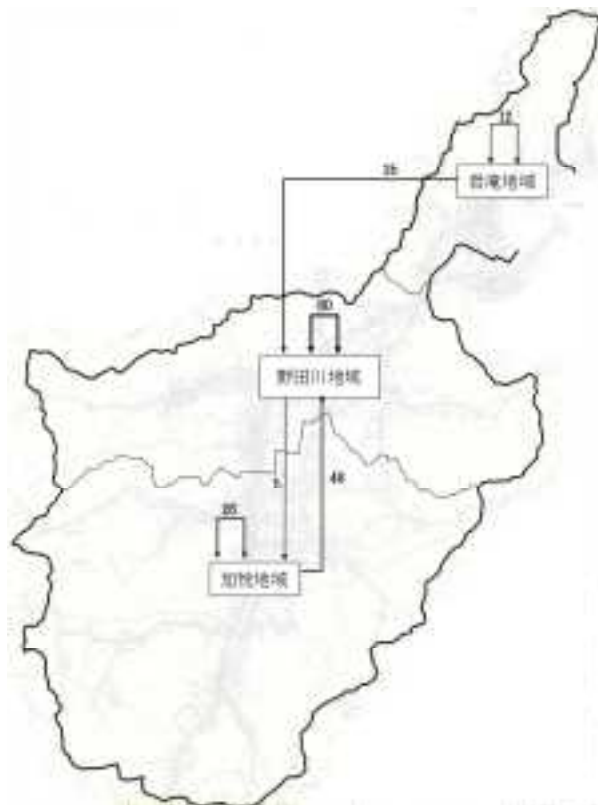
対 象 世 帯 数	800 戸
調査配布件数	2,400 件
回 収 件 数	合計 438 件（郵送：355 件、WEB：83 件）
回 収 率	世帯件数あたり 54.8%
	配布件数あたり 18.3%

(2) アンケート結果ならびに分析

- ・通勤・通学・買い物・通院において、家族による送迎も含めると約8割以上が自家用車を使用しており、特に、通勤・通学、買い物については約9割が自家用車を使用している。また、自家用車利用からバスへの代替についてもほぼ同数が代替できないと回答している。
- ・買い物移動は、町内は野田川町域への移動が多く、さとうフレッシュバザール、にしがきが多い。町外へは京丹後市のショッピングセンターメイン、宮津市のさとうフレッシュバザール宮津店（ミップル）への移動が多い。町外へは宮津市、京丹後市、福知山への移動が多く、自動車での移動が大半を占めている。
- ・免許非保有者は買い物時には、公共交通ではなく「自動車（家族で送迎）」利用の割合が高い。
- ・通院による移動は、どの地域においても地域内、または隣接する地域への移動とほぼ同数となっている。一番利用される通院先としては京都府立医科大学附属北部医療センターへの移動が最も多く、町外近隣市町へも自動車での移動が多い。
- ・公共交通利用頻度は「月に1～2回程度」の割合が高く、鉄道、バスともに利用頻度は高くない。
- ・利用目的として、「観光・レジャー」、「出張・仕事・商用」、「通院」、「買い物」、「その他」と多岐にわたっており、特定の目的にとらわれない利用が多いことから、現行の運行本数やダイヤに満足していない。
- ・要望として、「利用したい時間帯に運行するダイヤ」、「鉄道ーバス間、バスーバス間での乗り継ぎの改善」が多く挙げられており、利便性の改善が強く求められている。

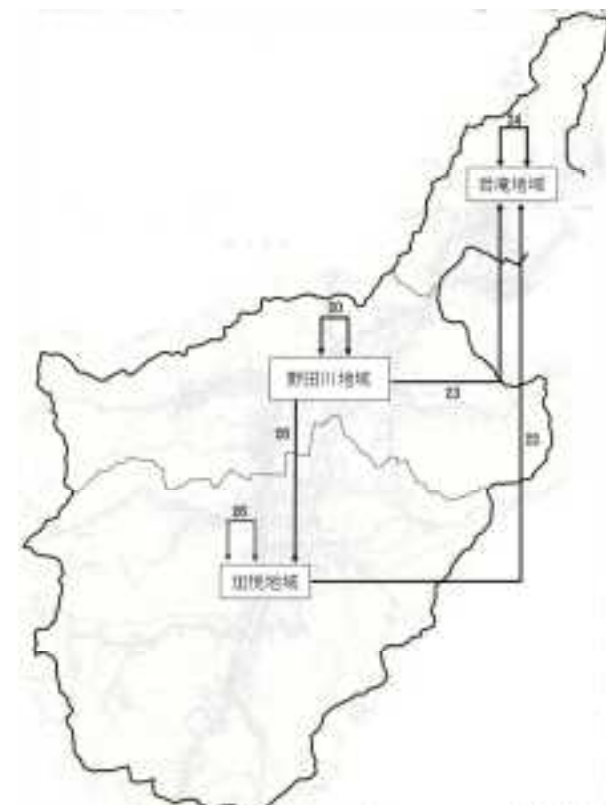
(3) 町内の移動状況

与謝野町内の買い物先の流動状況



施設名	件数	割合
さとう フレッシュバザール 野田川店	105	13.2%
さとう フレッシュバザール・バザールタウン	87	10.9%
スーパーにしがき	68	8.6%
加悦谷ショッピングセンターウィル	63	7.9%
スーパーにしがき 石川店	51	6.4%
さとう フレッシュバザール 与謝野石川店	47	5.9%
ディスカウントドラッグコスモス	47	5.9%
ディスカウントドラッグコスモス 与謝野店	39	4.9%
スーパーにしがき 加悦店	29	3.6%
ゴダイドラッグ	25	3.1%
ゴダイドラッグ 岩滝店	22	2.8%
ショッピングセンター マイノ	22	2.8%
コメリ	20	2.5%
ジャパン 野田川店	19	2.4%
さとう フレッシュバザール 宮津店(ミツプル)	18	2.3%
ゴダイドラッグ 加悦店	16	2.0%
業務スーパー	15	1.9%
ゴダイドラッグ 野田川店	14	1.8%
ジャパン	11	1.4%
コメリ ハード&グリーン与謝野店	10	1.3%
スーパーにしがき 岩滝店	10	1.3%
ココカラファイン	9	1.1%

与謝野町内の通院先の流動状況



施設名	件数	割合
京都府立医科大学附属北部医療センター	69	23.5%
日置医院	33	11.2%
丹後中央病院	27	9.2%
いとうクリニック	23	7.8%
鳥居クリニック	15	5.1%
伊藤内科医院	11	3.7%
宮地医院	9	3.1%
須川医院	8	2.7%
宇治川歯科石川診療所	7	2.4%
岩破医院	7	2.4%
いわさく診療所	6	2.0%
市立福知山市民病院	6	2.0%
大森内科診療所	5	1.7%
浪江医院	5	1.7%
まるめデンタルクリニック	4	1.4%
よしおかクリニック	4	1.4%
京丹後市弥栄病院	4	1.4%
府中診療所	4	1.4%
そのだ歯科クリニック	3	1.0%
とみた眼科皮膚科クリニック	3	1.0%
金下歯科・矯正歯科	3	1.0%
豊岡病院	3	1.0%
与謝野町立国民健康保険診療所	3	1.0%

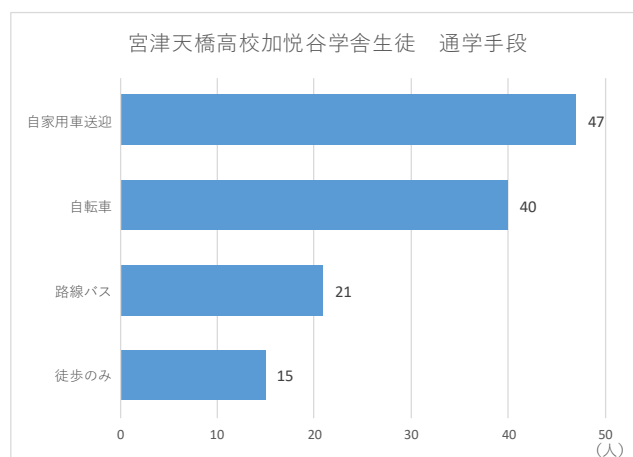
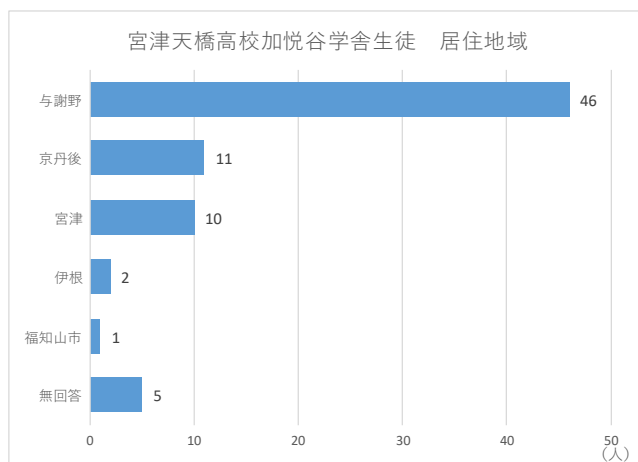
2-6-2 本町内に所在する高校の生徒を対象としたアンケート調査

(1) 調査対象校

調査対象校	京都府立宮津天橋高校（加悦谷学舎）
回 答 数	75 件

(2) アンケート結果ならびに分析

- ・通学は与謝野町内在住者が最も多く、近隣市町からも1時間未満での通学がほとんど。
「自家用車による送迎」が最も多く、次いで自転車での通学が多い。公共交通を利用される生徒が少ない。
- ・公共交通に対して「便利で使いやすい」「生活には必要不可欠なので積極的に利用したい」など約半数が好意的なイメージを持つ一方で、「料金が高い」、「自家用車・自転車の方が便利」だったり、バス・鉄道内の乗車人員が密になって怖いと感じている。
- ・要望として、鉄道・バスの運行本数の増加や、フリーWi-Fiの設置など待合環境の整備を求めており、また、利用時間帯には席数を増やしたり増便をすることで密を回避することを望んでいる。実現された場合には公共交通を利用するとした回答は7割以上となった。
- ・公共交通に関して自分たちは何も協力できないという回答も多い一方で、「自ら積極的に公共交通を利用するよう心がける」や、「公共交通のサービス向上を地域全体で支える」など、前向きに捉える生徒の意見が半数あった。



2-6-3 公共交通の利用者へのアンケート調査

(1) 調査対象

利用者：43 名分（内訳：与謝野駅利用者 16 名、データ提出 27 名）

(2) アンケート結果ならびに分析

- ・公共交通を利用される頻度は「半年に 1 回以下」が最も多く、週 3～5 回が次いで多かった。また、駅での聞き取りでは利用頻度の多い利用者は 10 代の免許を持たない学生や、障害者就労施設に通われている方などが多かった。
- ・多くの方々がスマートフォンを所有しており、スマートフォンを活用してインターネットで時刻を調べる方が多い。
- ・公共交通利用者の満足度は約半分が公共交通に満足をしているもの、自由意見では「不便」であったり、「運行本数が少ない」など、現状に不満を持っている。その他自由意見として、公共交通の良かった点として、移動時間中に他のことができることや、景色の良さ、車窓から景色を眺めることで気分転換になるといった意見もありました。

